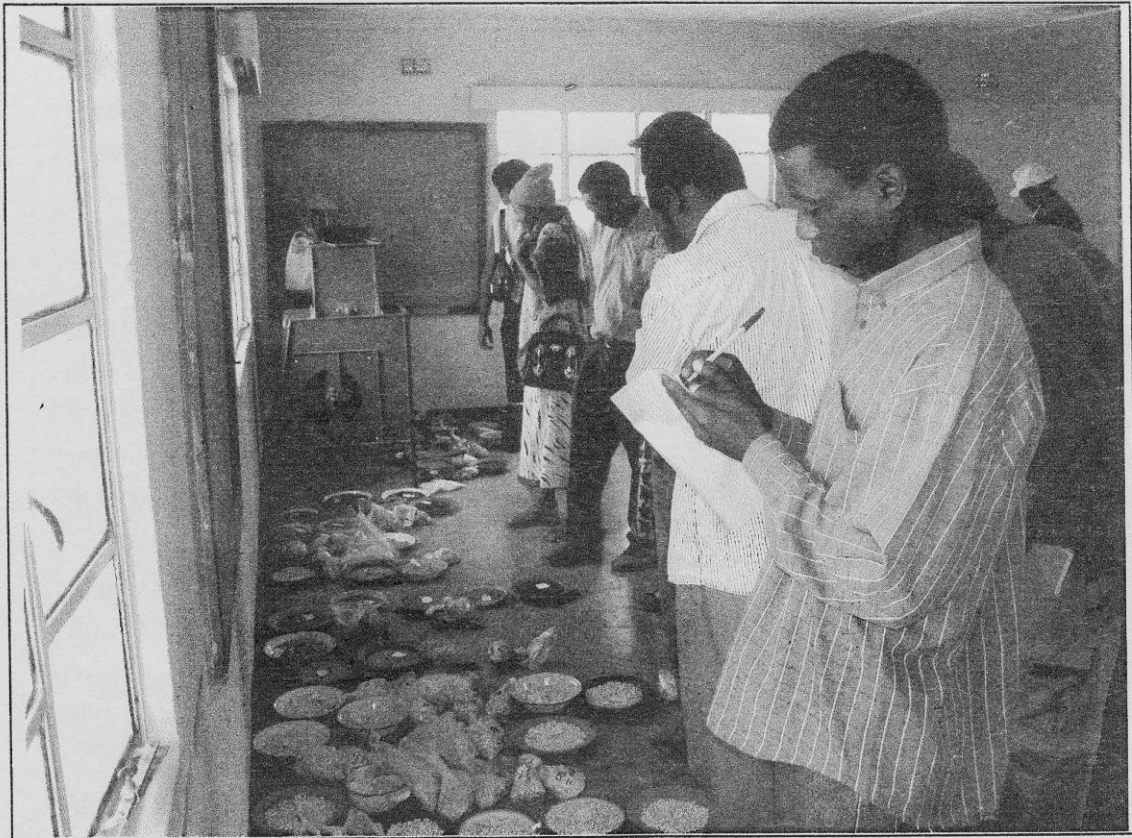


DADA



種の品評会が行われました。

種の支援プロジェクトも5年が過ぎ、この9月、シャシェ村で種の品評会が行われました。
詳しくは、本文2・3頁をご覧ください。

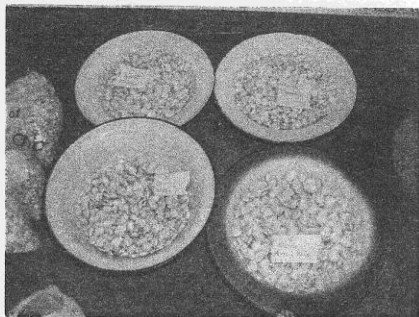
目次

● 8・9月のジンバブウェ出張報告	2・3
● 【本】吉國恒雄さんの著書紹介	4
● (募集) “今年印象に残ったアフリカ記事を教えてください”	5
● (募集) 『グレート・ジンバブウェ』100人の輪	6
● 2007・2008年のジンバブウェ支援	7
● 沖縄国際協力・交流フェスティバル2007 報告	8・9
● お知らせ	10

～ 8・9月のジンバブウェ出張報告 ～

在来種の種品評会が行われました！

去る9月3日、AZTREC が参加するネットワークによる、在来種の種品評会(中部地区・会場:シャシェトレーニングセンター)が行われました。国全域で、ガソリンなどが不足し、バスなどの公共交通機関に支障がでたり、各地域の支援団体の予算が減少している等、様々な理由から、参加人数は当初予定より少なく、農民、支援団体スタッフ、農業省付属研究機関とあわせて30名となりました。それでも村で代表者を選んで種を託す、車を出せる支援団体に協力を仰ぐなど、それぞれに工夫された中での開催でした。表紙の写真もあわせてご覧下さい。(報告:尾関葉子)。



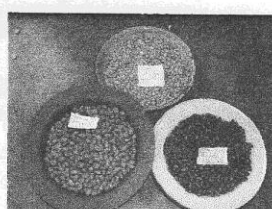
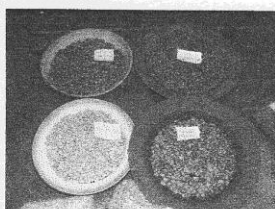
● 5年目の成果

DADA が AZTREC と一緒に在来種の種(主食のメイズ)を探し始めたのは2002年のこと。それから毎年違った地域に種を求め、地元シャシェでの生育を見守ってきましたが、今回、その「子孫」の種が数軒の農家から展示され、5年越しの成果を見ることができました。

左の写真はその一つ、北部のムザラバニという地域の農家から分けていただいた種です。これは、2002年の地球サミットの直後に買い求めた最初の品種で、シャシェでは4代目に当たります。

その他、メイズではカラハリ、レッド・コブ、ZM421、ZM521など、DADAが協力した品種が多く展示されていました。

また、メイズだけでなく、雑穀(ミレット、ソルガム、ラポコ)や豆類、油や薬草なども展示されました。中でも、豆の種類之多さには驚かされました。ジンバブウェの豆と言えば、主に Bhinzi (いわゆる「豆」)、Nyemba (ささげ)、Nymo (地下茎にできる豆)、Zhung (落花生) ですが、さらにそれぞれの「豆」に多くの品種があることを改めて知ることができました。



品評会に出された豆。左から、Bhinzi (豆)、Nyemba (ささげ)、Zhungu (落花生)。それぞれが多品種。

(カラーの写真は、近日中に DADA のウェブサイトに掲載します。)

● 表彰式もそこそこ…

品質のよい種には、それぞれ賞金が渡されました（右写真）。村を代表して来ている人が多く、一見すると、同じ人ばかり表彰されているようだったのが少し残念です。その後、中部地区代表が選ばれ、全国大会への参加について議論して閉会になりました。

時節柄、式典が終わると、帰りの足が心配なのか、皆さん別れの挨拶もそこそこに家路につきました。

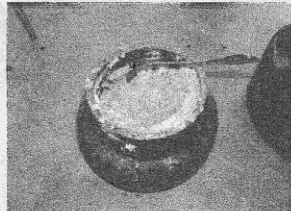
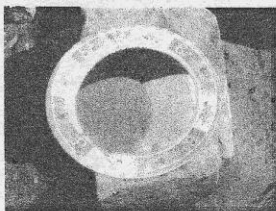


● これからも長い目で

「あの時の種だよ」と AZTREC のネルソン氏。最初の種まきからもう5年が経っています。数は少ないけれども、在来種の種を植えようという人が確実に増えてきていること。そしてその最初のきっかけを DADA が作ったことに対しての言葉した。その心遣いを嬉しく感じると同時に、でも、この「種」がずっと続いていけば、やがて DADA が最初に協力したことなど、誰も知らなくなる時が来る…。DADA とか日本とか、そういうことでなくて、この土地で生きていく人が種を探して種を選んで次の世代につなぐ、その作業に参加させてもらえた…そのことの方がずっとずっと嬉しいと思っています。

今回は、残念ながら、ジムト、ムパタの農家は参加できませんでした。距離が遠いこと、収穫がそれほど良くないことが理由のようです。シャシェだけを見ても、2002年以降の5年間は、大旱魃や、ドナーの一方的支援中止による AZTREC スタッフの給料ストップ、通貨切り下げにインフレ等々、本当に様々なことが次から次へと起こってきました。そうした困難の中でも、小規模ながら種を守り続けてきた農家の皆さんの努力に頭が下がる思いです。「ようやくここまで来た。でもまだこれから」ネルソン氏は誇らしげでした。

後日、ハラレに戻って帰国準備をする私に、全国大会を終えたネルソン氏が電話をくれました。大会で中部地区は3位になったこと、写真満載の報告書が大好評だったこと、そして…「次はいつ来る？日本のみんなによろしく伝えてくれ」



品評会の当日、参加者に出された食事の一部（左）朝の10時頃に出されたポリッジ。時計回りにラポコ（シコクビエ）・メイズ・白ソルガム（きび）を粉にして多めのお湯でゆがいたもの。（中）昼食に出されたサンプ（メイズをたたいてから煮る）。ピーナツバター味。（右）同じく昼食に出された「ニモ」とよばれる豆。塩茹でしただけのものだが、甘くて美味。

【本】吉國恒雄さんの著書 ご紹介

前号（5号）でお知らせいたしました、吉國さんの著書が昨年、ジンバブウェの出版社 Weaver Press から発行されました。現在ジンバブウェにいらっしゃる京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の飯田雅史さんにご紹介いただきました。

Yoshikuni, Tsuneo. 2006. "African Urban Experiences in Colonial Zimbabwe: A Social History of Harare before 1925." Harare, Weaver Press (ISBN 978-1-77922-054-7)

本書は、吉國さんが1989年にジンバブウェ大学に提出した博士論文が元になっています。ジンバブウェの社会史研究は1980年代後半以降に隆盛を極めますが、吉國さんの博士論文はその中でもきわめて重要な著作として知られており、長い間出版が望まれていました。

本書は大きく2部構成になっていて、第1部「人種隔離政策の景観とアフリカ人の定住」では主として原住民ロケーションの開設とその発展の経緯、および当時まだ少数だったアフリカ人の都市長期滞在者について描き出しています。第2部「アフリカ人労働者の『階級的』登場」では植民地初期のソールズベリーにおいてアフリカ人の大半を占めた出稼ぎ労働者たちの社会的・文化的世界を労働争議や各種の互助組織に注目して議論しています。先入観にとらわれることなく、アフリカ人の内的世界を社会的・文化的背景に留意しながら描き出すという吉國さんの研究姿勢が見事に結実した著作です。

なお、**本書には図表や写真も多く**載せられていて、植民地初期のジンバブウェの様子が具体的な数値や視覚的なものとして理解できるようになっています。また、表紙の上の絵は吉國さん直筆のもので、実はこれを元にしてジンバブウェの画家に絵を描いてもらう予定だったのですが諸事情によりそれが叶わなくなり、そのまま使用することになりました。歴史家の吉國さんらしくロケーションの細かな家の数まで正確に再現したというその絵は、なかなか趣き深いものとなっています。

現在、ジンバブウェは大変な政治的・経済的状況にあります。国際的に繰り広げられている報道や議論の短絡的あるいは政治的思考には注意を払うべきですが（前号をご参照ください）、一方で現実に生活環境が悪化していることは確かです。そんな中で葬儀講をはじめとする互助組織もインフレ等によって実際的な側面ではかなり活動が制限されているのが現状です。ただ、それでもその種の組織が廃れることなく根強い民衆の支持を集めているのは、精神的あるいは文化的紐帯を維持するものとして活動が展開されているためだと思われま

本書は、**そうした現在にまでいたる都市の文化的世界の起源**やアフリカ人居住区の歴史そのものを明らかにしています。のみならず現在巷にあふれているジンバブウェを語る両極端な議論に対して、アカデミズムの立場から冷静に分析する視角を本書は提供してくれているように思います。ジンバブウェの「いま」を理解するためにも是非多くの人に読んでほしいものです。

（飯田雅史）

(募集)

“今年印象に残ったアフリカの記事”を3つまで教えてください

日頃から、DADAの活動をご支援頂き、ありがとうございます。

このたび、メディア・ウォッチプロジェクトでは、この1年間（2007年1月1日～12月31日まで）に日本の新聞（ネット上のニュースも含む）で報道されたアフリカの記事の中から、「印象に残った・読み応えのあった記事、もしくは、ちょっと気になった・疑問に思った記事」を募集することに致しました。

あなたの印象に残った記事はなんですか？3つまで選んで、ご連絡ください。

（日付等は、だいたいでかまいません）。皆様からいただいた記事情報やご意見については、会報などを通じてお知らせしていく予定です。

（予告）アフリカ報道 読者による公開座談会

2008年2月16日（土）午後6時～8時（終了後懇親会あり）於：調布市市民活動支援センター内
今年（2007年）2月に開催した「アフリカ報道 ジャーナリスト座談会」に続き、年明けの2月には、新聞や報道の受け手から見るアフリカ報道についての座談会を、公開で開催いたします。

皆様のご意見もぜひ議論の参考にさせていただきます。また、座談会のパネリストとしてお声をかけさせていただく場合もございます。その際には、ぜひご協力をお願い申し上げます。

慌しく過ぎる年末年始の毎日ですが、1年を振り返るお時間の中から、ほんの少しだけ今年のアフリカニュースに思いを馳せるお時間を分けてくだされば幸いです。皆様からのご連絡をお待ちしております。

<参考ホームページ>

・DADA ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/DADA/>

（表紙の「メディアウォッチ」からお入りください。近日中に11月分までアップの予定です）

・アフリカ Africa2007：<http://www.arsvi.com/Oi/2-2007.htm>

・アフリカ・ラティーナ・ピース翻訳サイト：<http://africa-latina.info/>



“あなたが選ぶアフリカ記事・2007年” 2008年1月10日 までにお願ひします。

送付先： メール：dada-africa@nifty.com または FAX：042-444-6934

新聞名	日付	記事タイトル	コメント
-----	----	--------	------

1

2

3

お名前()

「グレートジンバブウェ」(吉國恒雄著・講談社現代新書・1999年) 100人の輪!

アフリカ最大の遺跡は何を語るのか?

グレートジンバブウェの石壁は、蛇のように曲がりくねりながら、多数の入り組んだ空間を作りだしている。直線や直角を嫌い、規則とか定型の類を退けるその姿は、思わずポストモダンと形容したくなるほど、乱雑、気まぐれ、あいまいであって、かつまた、のびやかで優雅な雰囲気たたえている。(中略)(本書より抜粋)

ジンバブウェをもっと知ってもらいたい—そう思っても、手軽に読めるお薦めの本は、実はあまりありません。そんな中で、この本は手軽で(212頁、B6サイズの新書)わかりやすく、一押し書籍です。でも、残念なことにすでに絶版になっています。

DADA 事務局では、手元に数冊あるこの本の活用を考えてきました。そして、本の貸し出しを行うことにしました。目標は100人。名付けて「**グレートジンバブウェ**がつなぐ**100人の輪!**」ぜひ、あなたも参加して下さい。

「グレートジンバブウェ」を読みたいと思われる方は、事務局にご連絡下さい。事務局から本を送付いたしますので、読後はお手数ですが事務局までお戻し下さい。事務局経由ではなく、先に読まれた方から直接送っていただいても構わない(=ご住所を事務局以外の方にお知らせすることになります)方は、その旨、ご連絡下さい。

お願い その①:本の貸し出しは、無料ですが、事務局または、つぎの方への郵送料(クロネコメール便で80円)をご負担いただきたく存じます。

お願い その②:本を読まれた後、ぜひご感想を周囲の方にお伝え下さい。ご自身のブログやウェブサイト、メーリングリストでのご紹介、または、アマゾンやセブン&ワイなどのネット上のブックストアなどへの投稿も大歓迎です。(お手数ですが、投稿された際は事務局まで投稿先をご連絡ください)一人でも多くの人が投稿して下さいことで、再版が可能になると考えます。復刻ドットコムサイトもご覧下さい。<http://www.fukkan.com>

“日本の読者は幸運だと言えよう。彼らは、吉國恒雄の日本語の著作『グレートジンバブウェ』(講談社、1999)を読むことのできるのだ。『グレートジンバブウェ』は、アジアでも類を見ないほどの緻密な調査に基づいたジンバブウェの近代までの発展を記している著作である。”

今年ハラレで発行された吉國恒雄さんの英語の新刊(DADA 会報6号の4頁をご参照下さい)の書評が、ジンバブウェの独立系新聞、インディペンデント紙(週刊)に掲載されました。上記はその抜粋です(訳:尾関葉子)。

～ 2007/2008年のジンバブウェ支援 ～ AZTRECのウェブサイト作成を始めます

● 種保存庫の壁補強(セメント)

かねてより報告の通り、DADAでは、種保存庫の外壁補強用に、セメント代を支援することにしていましたが、今回の出張で、セメント代をAZTRECに試算してもらい、セメント代10袋(一袋50キロ)用に、追加支援100米ドルをAZTRECに渡してきました。AZTRECでは、雨季が始まる前に補強したいという話でした。詳細は、追ってご報告させていただきます。また、その後の支援活動についても話をしてみました。

● AZTRECのパソコン、ついに壊れる

AZTRECでは、USAIDから寄贈されたパソコンを使っているのですが、この夏、シャシェを訪問した時、「まったく動かないから見てくれ」と言われ、開けてみたところ…ハードディスクが完全に壊れていました。当然、AZTRECは困っています。種品評会の地区大会と全国大会は目前…。急遽、尾関が記録をとり、簡単な書類を作成。ハラレに戻って写真を含めてプリントしたものを、ハラレ地区から参加する別の団体に手渡しして運んでもらいました。

● 必要な支援って何?

パソコン一台くらい支援できないか、とも考えました。日本で買えば、かなり安価で買うことができます。でも、現在、AZTRECは、活動の拠点を電気も電話もないシャシェに移しています。一番パソコンを使うネルソン氏でさえ、1～2ヶ月に一度程度しか街に出ることがなく、パソコンの使用回数は限られています。日本製を送っても、電圧やOS、ソフトの違いでかなりの手間がかかります。何かあったときに、彼ら自身で対応することができません。南アフリカなどで買うとしても持込の際にかなりの関税がかかります。ジンバブウェ国内で経済の様子を見ながら、彼らが使いやすい機種を自分たちで買うほうがずっとよいのではないかと思に至りました。

もちろん、パソコンが不要だとは思いません。が、緊急に必要でDADAに手伝えることって何だろうと考えAZTRECとも話をしました。**その結論が、AZTRECのウェブサイトを立ち上げることでした。**

彼らが直接ウェブサイトアクセスできるのは多くて月に一度程度でしょう。けれども、ウェブサイトがあれば、世界中の人にAZTRECの活動を伝えることができます。ネットカフェを使えば、メールにアクセスできます。もっと知りたいと思う人たちとAZTRECをつなげることができます。

● 彼らの言葉で作るウェブサイト

AZTRECとの付き合いは8年になりますが、その折々で、パソコンの修理を手伝った経緯もあり、彼らのデータのバックアップは、2006年分までDADA事務局で保管しています。また、DADAが撮影したデジタル写真は全てAZTRECと共有しています。そのため、ウェブサイトの内容は、彼らの言葉と彼らを選んだ写真で構成する事ができます。

**日本にいながら、もう少し彼らに近づくことができる、AZTRECのウェブサイト。
近日中にお目見えします。DADAのサイト同様、よろしくお願ひいたします。**

沖縄国際協力・交流フェスティバル 2007 報告 (2007年11月10-11日)

去る11月10日(土)と11日(日)、沖縄県浦添市の沖縄国際センター(JICA 沖縄)にて、国際協力・交流フェスティバル 2007 が開催されました。DADA からは、廣内と尾関がブースを設置し、活動紹介、アフリカの写真展示、物品販売などを行いました。中でも今年の見玉は、「教えて!好きな野菜、嫌いな野菜」と題して実施したアンケートでした。ここでは、今年で3回目となったフェスティバル参加の様子をご報告いたします。

● 晴天に恵まれたフェスティバル

沖縄で活動する NGO や国際交流、協力機関が出店したほか、料理屋台やミニコンサート、JICA 研修員の方々が参加する国際交流運動会など多岐にわたるプログラムが2日間かけて開催されました。この時期、毎週のようにさまざまなイベントや学校行事が目白押しなのですが、それでも延べ約3000人以上(主催者発表)の方が来場され、情報収集をされたり、普段あまり接することのない歌や食事を楽しまれました。

● 展示と物品販売

2004年は、サザにピーナッツソースとトマトソースの2種類のプレート、そして飲み物を販売したDADA。

2005年は、ガーナ、モーリシャス、ケニア出身の3人のJICA 研修員の方々にご協力をいただき、メディアウォッチプロジェクトの一環として、アフリカの人からみたアフリカ報道について座談会を開きました。(詳しくは会報3号をご覧ください)。

2006年は開催されなかったため、今年は2年ぶりのフェスティバルとなりました。

今回はまず、会員の方々にご協力いただき、これまでで最も充実した物品販売を行うことができました。販売したものは、皮製のカバンにスカーフ、アクセサリ、カードなど約20種類。「え?これが、エチオピアの刺繍?」「わー、ウガンダのサンダル、かわいい!」「こんなオシャレなアクセサリをつけてるんだ」など、アフリカ関係のブースや物品が少ないフェスティバルだったこともあり、新鮮な印象を持っていただいたようでした。目の前の素敵な雑貨たちがあまり耳にすることのないところからやってきたと知り、アフリカの国々を少しでも身近に感じていただけたのではないかと思います。

また、東京のNGO、サパ(西アフリカの人達を支援する会)から寄贈していただいた写真集も展示し、明るく力強く美しい西アフリカの写真の数々に見入っていかれる方も多くいらっしゃいました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。



● 「教えて！好きな野菜、嫌いな野菜」アンケート

今年は自給1%運動に焦点をあて、「教えて！好きな野菜、嫌いな野菜」アンケートを実施しました。まず、農林水産省が自給率の統計を出している野菜に、沖縄特有の野菜を加えた全36種類の写真や絵の“シール”を並べました。そこから、①「好きな野菜、よく食べる野菜」②「嫌いな野菜、あまり食べない野菜」③「知らない野菜、食べたことのない野菜」を考えてもらいます。次に、思い当たる野菜の“シール”をそれぞれのボードへ貼ってもらいました。分かりやすい方法でしたので、小さな子どもたちも参加してくれました。(結果については下表をご覧ください。)1点のみ投票した方も、3~4点貼ってくださった方もいらっしゃいましたが、全投票数は853票でした。ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。

	好きな野菜 (よく食べる野菜)	嫌いな野菜 (あまり食べない野菜)	知らない野菜 (食べたことのない野菜)
1位	じゃがいも	なす	クワンソウ
2位	にんじん	ハンダマ(スイゼンジナ)	シカクマメ
3位	トマト	トマト	サクナ(長命草)
番外編：微妙な野菜(嫌いだがよく食べさせられる野菜)にんにく、ピーマンなど			
アンケートの対象にした野菜： 大根、トマト、ごぼう、ピーマン、きゅうり、トウモロコシ、にんじん、たまねぎ、レタス、ブロッコリー、ブロッコリー、にんにく、枝豆、じゃがいも、白ねぎ、なす、ほうれん草、キャベツ、青ねぎ、アスパラガス、白菜、かぼちゃ、ゴーヤ、フーチバー(よもぎ)、サクナ(長命草)、シブイ(冬瓜)、ナーベラ(ヘチマ)、島ラッキョウ、ハンダマ、モイ、ターナム(田芋)、シカクマメ、デークニ(島大根)、パパヤー(パパイヤ)、チデークニ(島にんじん)、ニガナ、クワンソウ			

● 2日間のアンケートを終えて



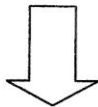
このアンケートは、“自給率”に潜む統計の難しさに直面して浮かんだアイデアでしたので、もともと厳密な集計結果を出すことを意図していたわけではありません。むしろ、こうした場を設置したことにより、ブースで足をとめてくださった方々に、自給率1%運動について紹介したり、家で育てている野菜の種類や難しさなどについて、情報交換することができたことは大きな収穫だったのではないかと思います。また、「食べたことのない野菜、知らない野菜」の多くが沖縄の伝統野菜や沖縄特有の野菜だったことは印象的でした。各家庭レベルでの小規模な野菜栽培ではそれほど多くの手間をかけられるわけでもなく、沖縄で特に育てられてきた野菜はある程度気候や風土にあっているはず。にもかかわらず、そうした野菜を口にする機会が減っているのは一考の余地があるかもしれません。また、親子の間で「〇〇君、お母さんが作ったものは何でも食べるわよね。」「え？僕、ピーマン嫌いだよ」なんていう会話がこっそり耳に入ってくることもありました。ぜひ、今度は他の地域でも試してみたいと思います。(報告 廣内かおり)

¹ 自給率の統計は、市場の流通量を元に計算するため、自宅で栽培した野菜などは計算に含まれない。

(お知らせ)ウェブサイト作成のボランティア募集!

本文7頁にもあるように、DADAでは、AZTRECのウェブサイト作成を始めました。でも、その前に…、そうです!DADAのウェブサイトももっと改善しなくてはなりません。しかし、現実…。DADAは現在スタッフが4名(1名は休職中)。PCのソフトに強い人は誰もいません。

DADAは困っています。例えば…。



- **めざせ1%!自給率** の頁を誰でも書き込めるBSSにしたいけど、管理が難しそう…。
- **メディア・ウォッチ**の頁を見やすくしたい。
- 各頁に**フレーム**をいれたい。(以前ありましたが、代表が壊してしまい、そのまま…) 等等…、悩みは尽きません。

ウェブサイト、作成するのが好き!という方、いらっしゃいませんか?

ぜひ、ぜひ、DADAのHP作成にあなたの知恵と腕を貸してください。

ご協力いただける方、事務局にご連絡下さい。スタッフが抱える問題を直接お会いしてお話したいと思います。ご連絡はメール dada-africa@nifty.comまで。

お待ちしております!

//編集後記//

- 日本でも貧困化が問題になっています。教育課程、企業福祉、家族福祉、公的福祉、自分自身の5重の排除が貧困化の原因だとか。逆に連帯が救いになります。(真)
- 相方がアフリカに出張。息子(4歳)は、タンザニア、マラウィ、ザンビアの名前を覚える。市場で買ってきてくれた布がとっても素敵♪でも、お土産でもらうのもいいけれど、自分でも行きたいなあ…(佐)
- 12月に入りましたが、昼間は半そでの子どもたち。沖縄と本土の温度差が大きいこの時期ですが、それ以外にもみられる「温度差」に、言いえて妙だなあと思います。(廣)
- 4頁でご紹介している吉國さんの著書。ハラルの書店でタイトルを思い出せず、「YOSHIKUNIの新刊」とだけ言ったら、「あるよ」と即答して目の前に出してきてくれた。ジンバブエでの知名度の高さにあらためて感激(尾)

会報 DADA 第6号 2007年12月19日発行

《発行人・編集責任者》尾関葉子

《編集スタッフ》本田真智子、廣内かおり、佐藤由規

《発行所》アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

(Dialogue and Action for Development Alternatives in Africa and Japan)

郵便物送付先: (東京) 〒182-0022 調布市国領 2-5-15 調布市市民プラザ あくろす

市民活動支援センター内 ボックス No.7

(沖縄) 〒900-0013 那覇市牧志 3-2-10 ぶんかテンプス館 3階

那覇市 NPO 活動支援センター 1階

FAX: 042-444-6934 E-mail: dada-africa@nifty.com URL: <http://homepage3.nifty.com/DADA/>

※この会報は森林認証パルプ+植林木パルプ100%の紙を使用しています。

